

道 草

子供のころよく道草をした。梅雨空の下、ルリ色に咲くツユクサが可憐で摘んでみたが、家に帰るともうしおれていた。「ツユクサはすぐしおれるよ。」と母が教えてくれた。

昔は道端の雑草は子供のよい遊び相手であった。エノコログサ・スズメノテッポウなどの和名は、子供達の草への愛情を示している。西洋でも同じらしく、エノコログサをfoxtailというなどはおもしろい。

畑いじりをするようになってから雑草は敵となった。丈高にはびこったツユクサは、引くとプツプツ切れてとても可憐どころではない。エノコログサのジャングルのかげに息も絶えだえな作物をみると、心から憎らしくなる。

人類が農耕を発明してから、膨大な精力を雑草との戦いに費してきた。戦後の有機農薬の出現で苛酷な労働は著しく軽減されたが、一方で生態、環境への影響も大きな問題となっている。

雑草という理由で現存する特定の種を地球上から根絶やしにすることは、強力な除草剤でも困難だし、またその必要もない。農耕地で雑草を防除し、作物の成育、収量を十分確保すれば足りる。そのために何よりも安全な、しかも活性・経済性もすぐれたweedcontrollerを開発すべく、英知が結集されている。

激増する世界人口を支えるための農業生産性の向上も、農薬を抜きにしては考えられない。だからといって、生態、環境の破壊が起こってよいと思う者は誰もいない。われわれもまた、地球と人類を守ろうとしていることを、すべての人に知ってもらう必要がある。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事 石原産業㈱取締役農薬開発本部副部長 家木裕隆〕

目 次 (第19巻第7号)

バイオテクノロジーと除草剤……………2

＜宇都宮大学教授 竹松哲夫＞

1. 生物学の進歩とバイオテクノロジー……………2
2. 先端的バイオテクノロジーフイーバー……………3
3. 植物の進化は遺伝子組み換えの歴史……………3
4. 植物の単位としての種の認識……………4
5. 人類と農業植物の共生……………5
6. バイオテクノロジーを使う除草剤開発……………6

韓国における雑草防除の現状……………8

＜日植調 吉田考二・柴谷得郎＞

千葉県におけるサトイモ栽培と雑草防除……………14

＜千葉県香取農業改良普及所 小野敏道＞

新潟県におけるナスの栽培と雑草防除……………18

＜新潟県園芸試験場 小田切文朗＞

世界の農耕地雑草とその調査研究(7)——ナス科(3)……………24

＜宇都宮大学 竹松哲夫・一前宣正＞

昭和59年度非農耕地用除草剤・生育抑制剤試験成績概要……………31

＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞